

『星守る犬』完成メモリアルイベントに

西田さん、玉山さんら来名



メモリアル石碑の除幕、
名寄ふるさと大使の委嘱

7日、映画『星守る犬』（11日公開）の完成を記念して俳優の西田敏行さん、玉山鉄二さん、監督の瀧本智行さん、原作者の村上たかしさんが名寄で行ったメモリアルイベントに出席。西田さんが演じる「おとうさん」の「最後の地」となるふうれん望湖台自然公園で約500人の市民に迎えられ「ただいま」とあいさつ。西田さん、玉山さんの手形が押された「星守る犬メモリアル石碑」の除幕式が行われた後、加藤剛士市長から西田さんをはじめ4人に「名寄ふるさと大使」としての委嘱状が手渡されました。

西田さんは、記念碑の前で「ついの住み家になった場所が、こんな温かい空気に包まれて、感慨無量です」と思いを述べられ、続いて玉山さんが前夜に寝ずに考えたというキャッチコピー「どこに行こう あそこに行こう 名寄！」を披露すると市民からは歓声が沸きあがりました。

会場は、北海道名寄産業高等学校の生徒たちが製作したイス、市民組織ひまわりのまちプロジェクトによ

り石碑のまわりに植えられたひまわりなど、手作り感あふれるセシモニ。映画のエキストラなどで協力した東風連小学校児童から思い出メッセージ、そして、名寄産業高校生徒からは、映画のロゴやキャラクターを刻んだ木製ボックスに入れたトマトジュースやひまわりクッキーなどが4人に贈られました。

「ハッピー像」の除幕式

次に、道立サンピラーパーク内かなよる市立天文台きたすばるの前に建立された西田さんと旅をする秋田犬「ハッピー像」の除幕式。西田さんからは「他の映画のときもかなわなかった念願の記念碑。渋谷のハチ公同様、ここで待ち合わせをしてください」と撮影地に「足跡」を残せたことに喜びの表情で、石像のハッピーの視線を追い、北東の空を見上げていました。

関係者からも「かわいい！」と感嘆の声がとびました。

なお、ふうれん望湖台自然公園の石碑とこの記念碑はいずれも有志市民の寄付によって造られました。

※Web上での画像公開に制限があります。誌面では、俳優の西田敏行さん、玉山鉄二さん、監督の瀧本智行さん、原作者の村上たかしの画像を掲載しています。

(下段の※も同様です)



※Web上での画像公開に制限があります。誌面では、俳優の西田敏行さん、玉山鉄二さん、監督の瀧本智行さん、原作者の村上たかさんの画像を掲載しています。

(下段の※も同様です)

名寄での試写会

17時30分から市民会館大ホールで上映に先立ち西田さんから4人により舞台挨拶が行われました。地元の温かい歓迎を受けて、西田さんは「皆さんのおかげで本当に素晴らしい作品になりました。私は福島県出身ですが、第二の故郷は名寄に決めました！名寄の良さは、無理な飾り付けをしていないところです。素晴らしい空気がクワイションをPRします」とさっそく「名寄ふるさと大使」としての意気込みをみせていただきました。

玉山さんからは、「撮影期間、名寄の皆さまに大変お世話になりました。映画には現代社会が抱えている孤独死などが描かれており、家族の絆を大切にしてほしいと思います」また、「大使に選ばれるのは初めてなので、気合入ってます」に続き、さきほどの観光向けのキャッチコピーを披露。すると西田さんから「よろしくないで、もっと寄る!!」と”下の句”が追加され大爆笑を誘っていました。

続いて、瀧本監督から「この映画の撮影場所を全国の中から選び名寄のサンピラーパークに決めました。この場所に出会えたことで映画の成功を確信しました」最後に、村上さんから「このように温かい出迎えていただけた事に感激しています。この映画は、自分の描きたかった情景が、まさに映像となったものです」

とごあいさつをいただき、映画の感動的な内容、そして楽しいトークから試写会が始まりました。

6月11日から全国一斉公開!!名寄第一電気館でも7月15日まで上映されています。名寄の美しい情景がスクリーンに広がります。ぜひご観覧ください。

試写会を終えての感想

- 感動して、涙が止まらない。
- 今回映画のキャストやスタッフが来てくれて、映画に対する親近感ももてた。
- 人間は一人では生きていけない。人や動物とかわりを持つことが大切だと感じた。
- 旭川出身。名寄の知らないところをこの映画をとおして知ることができた。
- お父さんとハッピーとの愛を強く感じた。
- 人と人とのつながりが大切。子供は、まだ小さいが、大きくなったら一緒に観たい映画。
- 名寄のひまわり畑があんなにきれいだとは知らなかった。
- 生まれ育ったまちをスクリーンをとおして観ることができ、感激。
- 東北出身。被災する前の素敵なまぢが映し出されている映画なのでぜひ、全国の方に観てほしい。

